

研究主題

講義1

夢をもって 多文化共生社会で生きる力を育む指導
～日本人児童生徒との温かな関わりを基盤にした在籍学級での学びを通して～

「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメントと DLA 理念と実践～理念編～」

・外国人児童生徒は言語だけではなく文化的な背景も様々なので、教師が教えても学べていないことが多い。教師が教えなくても学んでいるということが少ない。



・外国人児童生徒の「学ぶ」土台を広げ、「学ぶ」機会を増やし、「学ぶ」動機を高める必要がある。

・「学ぶ」土台・機会・動機づくりは学校全体の責任。担任の先生が要。みんなで担い、いかに周囲の人たち（行政のサポート、地域・家庭）を巻き込むかが大事。

・DLAの目的

① 子どもの力を引き出す + 測る

② 子どもの力を認める + 伸ばす

※ほめるべきところをきちんとほめる

・DLAの結果から支援を考える

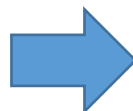
○長期的に取り組む姿勢で

○関わる人を多くして多面的に

○すべてを「学び」の機会に



行政・地域・家庭・学校全体で責任を担い、
外国人児童生徒を多面的に支援していく。



講義2

「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメントと DLA 理念と実践～実践編～」

○アセスメント DLA 実施にあたっての準備

なるべく静かな部屋・机・椅子(L字に座る)

録画・録音機材

絵カード・実践ガイド

○DLAを通して、教師が児童に達成感を与えることが重要。

子供が「先生は自分に興味をもってくれる。」「自分の話に関心を持って聞いてくれる。」と感じられることが重要。